

鼎談

土井義尚師 × 國森康弘氏 × 秋吉龍成師

地球遊行

ちきりちきり

世界の生死を觀じ、
そして自身へ

「年間に自死を選択する人がおよそ3万人以上、引きこもりはおおよそ100万人以上」。久間会長が所信表明でも触れた現代日本の病巣。18期全曹青にとっては、「大衆教化の接点」としての電話相談員養成事業を展開する上で、否応無しにそういった世情の後ろ暗さと向き合わざるを得ませんでした。

本稿は、18期全曹青の活動を総括するという思いを込めて、電話相談員養成事業の裏付けとなった現代日本について、世界規模で活躍する方々の意見も交えて再考します。

鼎談の出席者は、元陸上自衛隊幹部ながら、大本山永平寺での修行歴も持ち、現在は「NPO 法人 日本地雷処理を支援する会」(以下、JMAS)のアンゴラ事務所現地代表を務められる土井義尚師(曹洞宗侶)。そして『sou sei』に「メント」を連載されたフォトジャーナリストの國森康弘氏。18期全曹青の電話相談員養成事業を取り仕切った秋吉龍成師(基幹事業委員長)の3名です。

鼎談が行なわれた3月17日は、「東日本大震災」の発生からおおよそ1週間後に当たり、計画停電や福島原発の事故を受けて、鼎談場所である東京都内も非常時の重苦しいような空気に支配されていました。自ずと鼎談の口火も震災の話題からとなりました。

*本稿は発言者の個人的な見解に基づいた言質で構成されており、全曹青自体の公式な見解を標榜するものではありませんが、発言者の意志を尊重して、原意に則って掲載します。今取り上げたテーマにおける視点の一つとしてお読み下さい。

〈聞き手：全曹青広報委員会 板倉・城市〉

驚異の災害と日本の民度

——今の時点で総括的なことは話せませんが、それでも今、「東日本大震災」の話題を避けては通れません。國森さんは発生直後に被災地に入られましたか、実際に現地で何を感じられましたか？

國森 ● 完全に人智の及ばないところで破壊されている有様で……ただただ圧倒されました。みんな嘆き悲しんで涙

で途方に暮れるというよりは、その実感までいってなくて、「悪夢でも見てんちゃうか」って感じで、目も合わずフラフラ放心状態で歩いているようでした。

土井 ● 日本は世界的にも自然災害が最も多い国の一つです。よく「アンゴラって内戦もあつたし、治安も悪くて危険じゃないですか？」って質問されますが、その点ではアンゴラに住んでい



カンボジアでのJMASによる不発弾処理活動の様子(土井)



土井義尚師

秋吉龍成師

の方が、かえって安全と思えるほどです。一方で、日本人の節度ある行動を外国のメディアが讃えていますね。ちょうど地震発生した日に、帰宅途中に立ち寄った池袋駅でお手洗い待ちの行列が100メートル以上！ しかも非常事態にも関わらず、落ち着いて整然と並ぶ様子を見て、さすがにその時は「これが日本人か」と感心しました。